

ムサビの教員が選ぶ

美大生におすすめの本

Recommended books for art students.

芸術文化学科
杉浦幸子教授

『30,000 years of art :

the story of human creativity across time and space.』

30,000
years
of art

館内閲覧のみ

Phaidon, 2007.

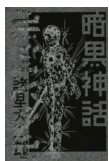
絵が描けない私にとって、美術との最も重要な接点は、今から40年前、大学に進学し、哲学科で学び始めた「美術史」でした。それ以来、私は、46億年前に生まれた地球という一つの惑星の歴史の中で、700万年前に生まれた人間によって生み出されたアートを、地球規模の大きな流れで捉えてみたい、という欲望を感じていました。

でも、当時（今もかもしれません）美術史の学びは、大きくは西洋美術史と日本美術史に分けられ、さらにその中で時代別・作家別などにカテゴライズされていて、その欲望を叶えることは無理なのかな・・・とっていました。

そこで出会ったのが、厚さ8cm、重さ6kgの"30,000 Years of Art"でした。28,000年前に制作された《Lion Man》から、今も制作過程の中にあるジェームズ・タレルの《Roden Crater》まで、地球上に生まれた1,000点のアート作品を、時間の30,000年の時間の流れに沿って見せてくれます。その卓越したエディトリアルデザインが、私が40年前から見てみたいと願っていた地球規模のアートの歴史を、地理や時空を超え、私たちに見せてくれます。

『暗黒神話』

諸星大二郎著、集英社、2017



館内閲覧のみ



民俗学、心理学、社会学、宗教学・・・人間を扱う学問領域を横断する独自の世界観をマンガというメディアを通して、私たちに伝えるクリエイター、諸星大二郎。私は学生時代に彼を知って以来、彼が生み出した創作物を次々と体験してきましたが、今回、その中から『暗黒神話』を紹介します。

今から約50年前、1976年に『週刊少年ジャンプ』に連載されたこのマンガは、荒涼とした冬の長野県蓼科山で殺された男性の脇で泣く少年のシーンから始まります。ヤマトタケル伝説を軸に古代神話や遺跡、仏教、SFまで縦横無尽に絡め、現実と虚空を行き来する彼の数奇な運命を辿る道程に、読者は引き込まれ、知らず知らずのうちに、自分自身にインナー・ダイブする。そんな目眩く体験を読み手に与えます。

そして今回紹介するのは、グラフィックデザイン界の鬼才、cozfishの祖父江慎と、彼と共にデザインワークを行う藤井瑤がブックデザインを手掛け、大日本印刷株式会社の高野裕之をプリンティングディレクターに迎え、造本された「愛蔵版」(2017年)です。黒地に銀インク、内側を朱で染め、梵字を切り抜いた外函など、『暗黒神話』の世界観を外在化・拡張する、デザインと印刷の粋を凝らした造本！

ぜひ実際に本を手にとって、その世界観を直に感じてほしいと思います。

『土のコレクション

(ふしぎコレクション; 3)』

栗田宏一 著、フレーベル館、2004



絵を描く人たちにとっては、「土」が絵具の原料となることは周知の事実ではあるかと思いますが。とはいえ、フレーベル館が小学生のためにシリーズで刊行している「ふしぎコレクション」3冊目であるこの本を手にとったら、「土」の世界の広さと奥深さに、改めて眼を開かれることと思います。

著者であるアーティスト・栗田宏一は、子どもの頃から縄文土器のかけらや石を集めるのが大好きで、そこから身近な土の美しさに気づき、10年以上、軽自動車で日本全国を巡り、1万以上の種類の土を集めてきました。そして、その土のコレクションを展示し、土の多様な美しさを多くの人たちに伝えていきます。この本を手にとってもらうと、土の色の多彩さに驚くと同時に、その土を生み出した地域、土着性、そして、そこに営々と住んできた人々の息遣いを感じます。

この本を読んでいると、ムサビ各所の土を集めて、絵具を作ってみたくになります。私は絵は上手に描けませんが、自分で絵具を作ったら素敵な絵が描けるような、そんな気がします。

『A child's book of play in art : great pictures, great fun』

selected by Lucy Micklethwait,

1st American edition, DK Pub, 1996.



美貌の未亡人マリア・クロスはラッセル氏の妾だった。彼女の主治医クレージュ医師はほのかな恋心をマリアに抱いている。マリアは、クレージュ医師の息子レイモンとほぼ同じ年頃の息子を亡くしていた。その息子の墓参りから戻る途中の列車の中で、中学校からの帰るところのレイモンに出会う。マリアはレイモンに息子の影を求めつつ、ほのかな恋心を抱く。マリアはレイモンを自宅に呼び寄せようと画策する。レイモンもマリアに惹かれて行く。だがしかし、レイモンと近づきになったとたん、男をむき出しにしたその欲望に接し、今度は彼を遠ざけるようになる。思いを遂げることのできなかったレイモンは、復讐を誓う。一方でクレージュ医師もその思いを遂げることではできなかった。医師はキリスト教的倫理観と自分の恋情の間の葛藤に苦しむ。『テレーズ・デスケルゥ』とともに、人間の情念とキリスト教の信仰の葛藤を描いたモーリアックの傑作。「神」を求める心に対比させるかのように、モーリアックは人間の本性を「獣」のイメージによって描き出す。